

ひだまり

第11版

令和4年 3月号

公立八鹿病院 緩和ケア病棟



今年は雪が多く、雪かきが大変でした。屋上庭園にもたくさんの雪が積もりましたが、草木の新芽が見え始め、少しずつ春を感じるようになりました。

今回は、がん患者さんが困ったときの『どうしようか…』のヒントとなるお話パート4をご紹介します。

※実在の患者さんではありません

今後の生活に不安を感じる Aさんのお話

緩和ケア病棟入院前面談を受けたAさん。できるだけ家で過ごしたいと思いつつ、一人暮らしのために痛みが出た時が不安で、その時は入院したいことをB看護師に伝えました。

できるだけ家にいたいんですね。でも痛みが出たら独居で不安だから入院したいと思われるんですね。



B看護師

Aさん(独居)
75歳

そうだ～。
痛くなったら薬を飲んだらええのか？救急車を呼ぶのか？
一人で焦ってどうしてええか分からなくなるだろうしなあ…。

そうですね。息子さんも娘さんも遠方ですし、痛みが出てきたらどうしたらいいのかわからず不安になりますよね。



Aさんのお気持ちは分かりました。できるだけおうちで生活できるようにお手伝いします。そして、痛みが出たら入院の相談をしましょう。

そうだ～。嫁さんは死んでしまったしなあ。嫁さんも痛そうにしてたことがあった。あんなことになったらどうしたらええかわからん。だから入院してお世話になろうと思う。



よろしく
お願いします

その後、しばらくしてAさんはC看護師が担当する緩和ケア外来に通院しました。

近頃、痛みが出てきたなあ。
C看護師さんは、わしの気持ちを知っているだろうか…

Aさん痛みが出てきたかな…。痛みが出たら入院したいって言うておられたけど、お気持ちはどうかな？

Aさん、痛みが出てきたように感じますが、いかがですか？
以前、「痛みが出たら入院したい」と言われていたが、お気持ちはいかがですか？

C看護師

よく知っておられますね！あなたに話しましたかな？

わたしは直接聞いていませんが、Aさんのお気持ちは大切に記録に残しているんです。ですから、スタッフみんなAさんのお気持ちを知っているですよ。

電子カルテなどで
情報共有します！



それで知っておられたんですね。そうと分かれば安心です。もらった薬を飲んで、もう少し家で過ごしてみます。どの看護師さんも気にかけてくれるんだもの。無理かなと思ったら、また相談します！

患者さんの思いをスタッフで共有し、どこで生活しておられても、患者さんの思いが叶うようにお手伝いさせていただきます。



1年間、ご愛読ありがとうございました



本号が令和3年度の最終となりました。1年間ありがとうございました。読んでいただいている皆さんを思い浮かべながら、内容を考えて、「ひだまり」をお届けしてきました。

今後も皆様のお声をいかしていきたいと思いますので、ご意見・ご要望がありましたら、お知らせください。

ひだまり担当者一同

